



## 芸術の都「プラハ」



プラハ日本人学校 宇佐美雅樹

チェコはヨーロッパの真ん中に位置する小さな国です。第一次世界大戦の戦火を免れた首都プラハはたくさんの文化遺産が現存し、中世の面影を色濃く残す都市としても知られています。その景観や建築物などが世界遺産に指定されています。チェコの国土は九州ほどの大きさで、その中に約1,000万人が暮らしています。北緯は北海道よりも高い位置にあります。1993年に連邦制にあったスロバキアが独立国家となり、チェコスロバキア共和国は「チェコ共和国」と「スロバキア共和国」の2つの国家となっています。

5月から6月にかけて開催される「プラハの春音楽祭」は世界的に有名で、チェコが生んだ大作曲家、スメタナの「わが祖国」が演奏されることが慣例となっています。

本校は今年度で41年目となり、児童生徒数の増減はあったものの、現在は100人前後で推移しています。今までに4回校舎が引っ越しました。現在使用している校舎は、もともとドイツ人学校であったものです。グラウンドの大きさはバスケットボールコート一面程度。体育館は地下にバスケットボールコートの半面程度の小さな施設です。そのため、学校行事や体力テスト、体育学習は学校外の施設も使っています。

プラハ日本人学校の二大行事は「運動会」「学習発表会」です。運動会は、サッカーチームのグラウンドを借りてもらって行います。前日からの準備もできませんので、当日の朝会場へ行き、ライン引きから始めます。会場準備や音響設定、運営面では大変ですが、天然芝で駆け回ることができる最高の環境で実施することができます。学習発表会は学年ごとの劇や合唱を発表します。市立図書館の大ホールを借り切っています。また12月には、クリスマスマーケットの見学もあります。

チェコでも新型コロナウイルスの大きな影響を受けました。昨年度私が受け持った小学部6年生は年間45日のみの登校でした。最後に登校したのは12月18日。卒業式もオンラインで行いました。3学期のオンライン授業では、音楽でリモート合唱指導を重ね、児童一人ひとりが歌う映像を録画し、全員分を合合わせて卒業生の合唱にしました。

令和3年度がスタートしました。児童生徒は週1～2回、教室で抗原検査を実施することを条件に、隔週登校が始まりました。今までにない教育活動に取り組むことになり、大変なことも多いですが、たくさんのことを学んでいます。帰国後はプラハで学んだことを、長野県のために生かしていきたいです。



カレル橋からプラハ城を望む



プラハ日本人学校



クリスマスマーケット



運動会